

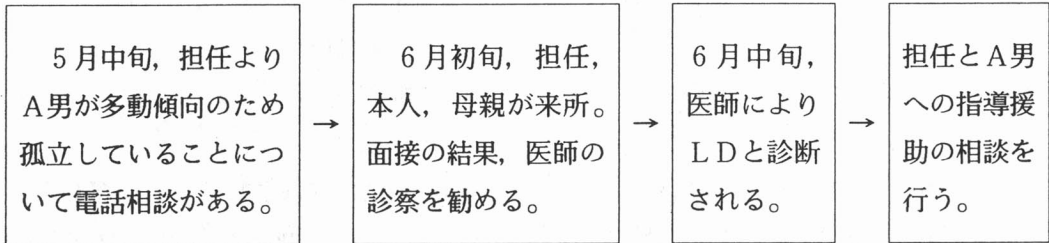
#### 4. 指導援助の実際

##### (1) 指導援助の方向

A男はLDのために集中力に欠け、多動傾向を示すことが多い。それが原因となって、担任からも級友からも認められることが少なく、疎外感、孤独感を感じている。このようなA男に対して、まず、

受容的に接し、落ち着いた環境の中で個別指導を進める。さらに、心の安定を図りながら、級友の前でよさを認め、存在感、所属感を味わわせる援助に努める。

##### (2) 指導援助の経過



指導援助	級友のかかわり・様子	A男の様子
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ A男が集中しやすいように席を教師の近くに置き、A男と言葉をかわす機会を増やす。</li> <li>○ 「忘れ物調べ表」, 「宿題調べ表」などの級友と競い合うような表の掲示をやめ、A男の苦手なことを級友と比較しない。また、されないようにする。</li> <li>○ 休み時間などA男の様子を観察するとともに、一緒に遊びながら、級友の中に入れるようにかかわる。</li> <li>○ 個別指導の時間を増やし、A男の学習の実態をとらえる。(学習の遅れている他の児童への個別指導も心がける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級活動で仲間はずれをなくそうという話し合いが行われる。</li> <li>○ 担任も一緒に遊びに参加することから、子どもたちもA男を迎え入れようとするようになる。</li> <li>○ 分からないことを互いに教え合おうという雰囲気が出てくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担任に自分から話しかけてくるが多くなる。</li> <li>○ 担任と一緒にいることから、安心して参加することができる。</li> <li>○ 個別に指導しているときは、落ち着いた態度で学習に取り組むことができる。</li> </ul>